

鳴門の伝説

「鳴門」という名前

鳴門という名前は四国の孫崎と淡路島の門崎との間にある狭い海峡を勢いよく流れる潮流に由来します。「鳴」は水流の轟音を表し、一方の「門」は「入り口」を意味する漢字で、ここでは孫崎と門崎に挟まれた海峡を指します。江戸時代（1603年 - 1867年）の絵図には、猛烈な水流と渦潮に驚く子供たちと、その一方で恐怖にすくむ大人の姿が描かれています。

鳴門海峡の人魚

1734年に地元で出版された書物や江戸時代のその他の記録によると、鳴門海峡には人魚が時々来訪したとされています。その他の古今東西に伝わる人魚の目撃例と同様、おそらくは魅了された目撃者がジュゴン（海牛という名前でも知られ、今日ではもはやこの地域で見られることのない絶滅危惧種）の上半身を人間のような頭と胴体に見間違えたのでしょう。もう一つの可能性はこれらの「人魚」が実際にはスナメリだったというものです。スナメリは最大で体長 2.3メートル、重さ 70kg 超まで成長する水生哺乳類です。